

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【国語】 ○全国学力・学習状況調査の結果より、「話すこと」「聞くこと」に関しては全国平均を5ポイント上回っており、「書くこと」に関しては1ポイント上回っている。 ▽全国学力・学習状況調査の結果より、知識に関する問題の平均正答率が、全国平均を4ポイント下回っている。 ・学びに向かう力等に関する意識調査によると、国語の学習に対して半数以上の生徒が「得意でない」と回答している。	●話し合い活動を取り入れた学習活動を継続して行い、自分の考えを言語化したり、相手の意見を取り入れたりする力を伸ばしていく。 ▼「知識」に関する力を高めるために、授業内モジュールによる漢字の学習を継続し、漢字テスト後には反復して学習する機会を設ける。また、文章を読む学習においても、意味調べを行う時間を設定する。 ・生徒が「できた」「わかった」と実感できるように、個別最適化された学習課題に取り組む場面を設定する。
【数学】 ○全国学力・学習状況調査の結果より、全国平均に対して「数と式」では4ポイント、「図形」では7ポイント、「関数」では4ポイント上回っている。 ・学びに向かう力等に関する意識調査によると、数学の授業に対して4割の生徒が「よく分かる」と回答している。 ▽全国学力・学習状況調査の結果より、問題ごとに比較したとき「確率」「1次関数（文章問題）」の正答率が5ポイント以上下回っている。	●引き続き教科担当内での打ち合わせとICT活用等の工夫により、授業規律・環境の整備を徹底する。 ・生徒の反応や問題の取り組み状況を考慮し、「よく分かる」授業を行うことを心掛ける。 ▼基礎的な知識・技能を確実に定着させる。そして、文章題から必要な情報を取り出し、解決の方針を立て、生徒間で共有する活動を増やす。また、思考・判断・表現の達成度の推移にも着目して期末の評価を行う。
【理科】 ○学びに向かう力等に関する意識調査では、理科の授業を「分かる」と答えている割合が8割を超えている。 ▽新宿区学力調査の結果より、3学年は教科全体で1ポイント低かった。一方で応用に関しては0.9ポイント高くなっている。	●基礎問題をおさえながら、分かりやすく授業展開を行うことができていると考えられる。今後も継続して取り組むとともに、理科が得意だと思える生徒を増やしていく。 ▼応用問題への取り組みは効果が見られるため、継続していく。また、基礎の定着を促すため、デジタルドリルを活用しながら、理解度を高めていく。
【社会】 ○学びに向かう力等に関する意識調査では、社会の授業を「分かる」と答えている割合が8割程度となっている。 ▽新宿区学力調査の結果では、区平均を0.9ポイント上回っているものの内訳をみると、A層29.9%、B層19.6%、C層21.6%、D層28.9%となっており、学力差が大きくなっている。	●ペアワークやグループワークを取り入れていくことで、教え合いや意見を伝えあう場を多くもうけることにより、さらに生徒の自信をつけたい。 ▼D層に対して、必要な知識・技能を身に付けるために小テストなどを細かく実施していくとともに、指導の個別化をはかる場面を多く設定していく。

【英語】

○新宿区学力調査の結果より、「聞くこと」「読むこと」に関しては新宿区の平均と比較し1.5ポイント程度上回っている。

▽「書くこと」に関しては課題があり、新宿区の平均と比べ0.5ポイント低い。

●「聞くこと」「読むこと」の活動量を維持し、リスニングや読解問題において概要と要点を把握する力を伸ばしていく。

▼「書く力」を高めるために、単語テストやレポートの課題を定期的に設定する。ALTと協力して助言・指導を実施していく。書くことの活動を繰り返し実施し、書くことへの苦手意識を取り払っていく。

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【国語】 ○授業において作文指導を充実させた結果、区学力調査において「書くこと」の達成率が全国平均よりも1年生は3.9ポイント、2年生は6.1ポイント高かった。 ▽区学力調査の結果において、1，2年生ともにC層・D層の合計が50%を超えている。	●単元ごとに、自分の考えをまとめて文章にする学習を行っていることが、「書くこと」の力を身につけることにつながっていると考えられるため、今後も継続して取り組んでいく。 ▼C層・D層の生徒が適切に基礎の復習を行えるように、デジタルドリルの活用を図っていく。また、授業ではグループワークを通じた教え合い・学び合いの活動を充実させつつ、個別的なフォローを充実させていく。
【数学】 ○区学力調査の結果では、知識・技能について、全国平均を上回った。(1年+1.6ポイント、2年+5.9ポイント) ▽区学力調査の結果では、2年において、AB層が減り、C層が増えた(A層が-2ポイント、B層が-4.8ポイント、C層が+5.5ポイント)	●授業で計算問題を多く取り組み、基礎・基本の定着を引き続き行う。また、思考・判断・表現の能力を伸ばしていくために、応用問題も適宜取り入れていく。 ▼C層の生徒の基礎・基本を徹底させるために、学びポケット等を活用して、基本的な計算能力の向上に努める。また、授業では、単元ごとに復習を多く取り入れる。
【理科】 ○基礎・基本の徹底により、区学力調査では、区平均よりも1年生で0.3ポイント、2年生で9.9ポイント高かった。また、2年生はA層の生徒が11%増加した。 ▽区学力調査の結果では、1学年において、C層・D層の合計が50%を超えている。	●年間を通じて行っている基礎・基本の徹底やデジタルドリルの活用が結果に結びついていると考えられる。これからも継続して取り組んでいく。 ▼1学年は日本語の読み書きが難しい生徒も多いため、D層では日本語指導との連携、C層に対しては学習のフォローを行い、少しずつ理解度を上げていく。
【社会】 ○区学力調査の結果では、1・2年生ともに知識・技能については、全国を上回る結果となった。(1年生1.6ポイント、2年生2.9ポイント) ▽区学力調査の結果では、1・2年生ともに思考・判断・表現については、全国を下回る結果となった。(1年生-0.1ポイント、2年生-10.1ポイント)	●小テストや単元テストなど、内容を定着させられるように細かく設定していることが知識・技能の定着につながっていると考える。今後も継続していく。 ▼知識だけではなく、資料を関連付けて考えられるような授業展開を今後はさらに増やしていく必要がある。
【英語】 ○授業においてリスニング指導を充実させた結果、区学力調査において「聞くこと」の達成率が全国平均よりも1年生は4.7ポイント、2年生は10.3ポイント高かった。 ▽区学力調査の結果において、1・2年生ともにC層・D層の合計が50%を超えている。	●ALTとの会話や英語を使ったパフォーマンステストを単元の中で複数回実施していることから、日常的な場面に応じた英文記述や聞き取りの力が定着していると考えられる。今後も継続していく。 ▼C層・D層へは基礎の復習を習慣化させるため、デジタルドリルの配信をおこなう。また、「聞くこと」「話すこと」だけではなく、文章を読み取る練習やまとまりのある文章を書く練習を取り入れ、全体の底上げを図りたい。